

【強みを活かした支援】

今回の研修のねらいは、参加者のみなさんが、強みを活かした支援の発想を拡げることでした。

新しいことでもなんでもなく、普段からみなさんが現場で常にやっていたりしゃる考え方並びに作業だと思えます。それを少しでも拡げること、現場で定着させることを目指した支援チームづくりがより進むことが研修のねらいでした。

もちろん、強みだけから支援を組み立てることは限界もあります。ただ、強みを活かした支援を組み立てることにより、支援も本人も互いに心地よく取り組めることから、支援の効果が生まれる確率が上がることがメリットとなると思えます。

そこで、支援を考えるにあたり、以下のことを考えることだと整理します。

① 普段から本人の様子（行動）観察を強み視点でとらえようと意識すること。（リフレーミング）

①' 強みを見つける積極的な働きかけをすること。（多様な経験の場を設ける）

※ ①も①'もどちらもアセスメントの位置づけです。

こう考えると、私たちの支援とは、何か活動を提供することとほぼ同じくらいの割合で、アセスメントを積み重ねることの二本立てが必要なのだろうと考えます。

② 私たち支援者が身につけてほしい行動力や資質（個別支援計画に係れている内容項目）を、本人（家族）に、それと向き合う（納得する）ことを大切にする。

※ ここ、かなり重要です。私たちは人を育成するプロとして、本人にとって必要な能力・資質を選び出す（決める）ことには確固たる力量があります。しかし、この本人にとって必要な支援の効果がでるためには、本人がこのことに向き合っていないと成果が出ないばかりか嫌な刺激を与えられることにしかなりかねません。これをどうクリアするかについては、本人や家族との信頼関係をつくることに他なりません。信頼関係が深まれば深まるほどこの向き合う作業に入りやすくなると考えます。

③ 支援者が、以下の強みを活かした支援に取り組む。

- ・本人のもともと持っている強み
- ・支援者が見方をリフレーミングした強み
- ・支援者がしかけて新たに発掘した強み

上記の手順で、支援を行う枠組みを支援チーム間でつくっていくことがこれからのみなさんの業務となると思えます。具体的には、以下の点がみなさんの取り組むポイントになると考えます。

- ・新たな強みを見つける支援の工夫をチームで考え、実行する。
- ・見つけた新たな強みを記録する方法を考え、実行する。
- ・強みを活かした支援（プチ実践でOK）をそれぞれの支援者が考え、共有する仕組みをつくる。

みなさんの、『仕組みをつくって実行する』への取り組みを引き続き応援いたします。